



## 「骨」のコンシェルジュ、「骨粗鬆症外来」のご紹介

血管内治療科 部長 西堀 祥晴

【日本骨粗鬆症学会認定医、循環器専門医、総合内科専門医】

骨粗鬆症は「骨強度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる骨格疾患」と定義されています。骨は子供から大人に成長し、身長伸びが止まった後も、終生、新陳代謝(リモデリング)を繰り返しています。古くなった骨は破骨細胞により吸収され、その後、骨芽細胞が新しい骨を形成してゆきます。健康な状態では、骨吸収と骨形成はバランスを保っていますが、骨粗鬆症では骨吸収が亢進し、骨形成がそれに追いつけない状態になっています。

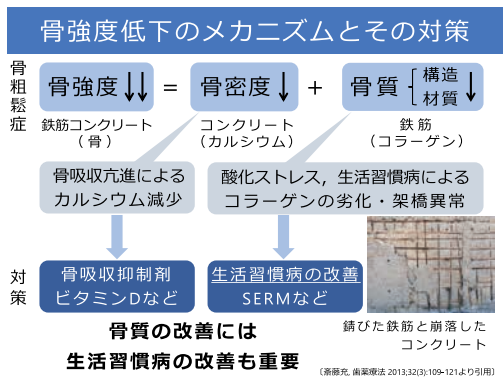
前回(当院広報誌「川崎病院通信 Vol. 34」、「ほほえみ Vol. 67」)、骨粗鬆症には加齢や食生活が深く関わっていることから「骨粗鬆症は生活習慣病のひとつである」というお話しました。今回は「骨質(こつしつ)」のお話をします。

骨の強さの指標に「骨強度」があります。「骨強度」は「骨密度」と「骨質」の2つで規定され、「骨密度」が「骨強度」の70%を構成し、残り30%を「骨質」が構成します。骨を鉄筋コンクリートの建物に例えると、「骨密度」がコンクリート、「骨質」が鉄筋にあたります。骨におけるコンクリートとはカルシウムを主としたハイドロキシアパタイト

のことで、鉄筋とはコラーゲンのことです。

糖尿病、腎臓病、肥満、動脈硬化の強い患者さんでは、骨密度が高

くても骨折しやすいことが知られ、その原因として骨質の劣化が注目されるようになりました。鉄筋が錆びていたり(材質不良)、鉄筋の組み方が粗かったり(構造不良)すると建物の強度が低下するように、骨質が劣化すると骨密度が十分でも骨強度は低下し、骨折しやすくなります。



骨質劣化は骨コラーゲンの架橋異常のことで、その原因として生活習慣病(酸化ストレス、糖化ストレス、慢性炎症、終末糖化産物: AGEsなど)が関わっています。現在、保険診療で、直接、骨質を調べることはできません。そのため、まずは骨質劣化を引き起こす生活習慣病の改善が不可欠となります。

閉経後女性を対象に、骨密度と骨質劣化から分類し骨折リスクを調査した研究では、「骨密度正常+骨質劣化」型はそれぞれ正常の群と比較して骨折リスクが1.5倍に、「低骨密度+骨質正常」型では骨折リスクが3.6倍に、「低骨密度+骨質劣化」型では骨折リスクが7.2倍になるという結果でした。骨質の劣化は軽視できません。骨粗鬆症は、加齢による原発性骨粗鬆症のほか、内分泌疾患やステロイド性のもの、また最近では癌ホルモン療法による骨粗鬆症も増加しています。骨粗鬆症の治療は、原因、年齢・性別、骨折の既往や程度、骨密度、腎機能、合併症、そして骨質に関わる生活習慣病などを考慮し、患者さんそれぞれに合わせたテーラーメイド医療です。

7月より当院整形外科 戸祭部長のもと、整形外科の専門外来のひとつとして「骨粗鬆症外来」を開設させて頂きました。当院の「骨粗鬆症外来」の特徴は整形外科と内科のコラボレーション(共同診療)にあります。通常

の骨粗鬆症診療に加え、「骨」のコンシェルジュ(総合案内係)として、必要があれば生活習慣病の精査加療、管理栄養士による食事指導、また骨吸収抑制薬に関連した歯科口腔外科の受診、治療継続のためお近くの整形外科へのご紹介などを行っています。さらには本邦における骨粗鬆症分野のエキスパートと連携し、現時点での最適な治療方針に関する情報を提供させて頂きたいと思っております(ご紹介実績: 神戸大学骨粗鬆症外来、そうえん整形外科)。外来は予約制です。まずは地域医療連携室までご連絡ください。



骨密度検査の装置(ホロジック社 Horizon)

### 骨粗鬆症外来のご案内

本年7月より骨粗鬆症外来を開致しました。骨粗鬆症にお悩みの患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

診察日: 木曜日午後(第1・3・5) 担当医: 西堀

#### 予約方法

予約制となります。ご予約は地域医療連携室までご連絡ください。

電話 078-511-3133 / FAX 078-511-3297

